



淀川 裕美

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育
実践政策学センター

保育士は、子どもたちの健やかな成長を支える専門家であると同時に、子育て支援も担い、働く女性を支える存在です。同時に、女性が95%近くを占める職業であり、自身も働く母親であることが少なくない中、保育士の健康や労働環境は近年ますます重要な議題となっています。

当日、保育士という切り口から女性の健康と労働環境について話題提供し、睡眠や健康の専門家の皆さまと交流させていただけることを楽しみにしております。



高橋 翠

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育
実践政策学センター

保育所で子どもたちが過ごす時間は一日あたり最大 11 時間です。したがって必然的に保育士の勤務形態はシフト制になります。また、日誌の作成や行事の準備などの持ち帰り仕事も多いことが報告されています。さらに、理想や使命感に駆られて必要以上に職務に没頭したり、ストレスを抱えやすかったりすることも指摘されています。こうした保育士の勤務形態や職業的特性が、大多数を占める女性保育士の心身の健康にどのような影響を及ぼしているか、皆様と議論できればと思います。